

会から

○いつまでも引きとめておきたい親しみではあるけれども。

幼児らの翼は、春空に力強く羽ばたいていく。勇ましく送り出してやりましょう。新しい楽しみの中に、ふと、わたし達とこの小さい幼稚園や保育所を思い出す時があつたら、いつでも、きのうのこの子として遊びにいらつしやい。しかし、その時はお遊びではない。小学生としてのあなた方のプライドを一番よく理解しつゝ、迎えるでしょう。しかし、幼児の時と同じよび名がついて出ても、今までと変わらない、お返事をして呉れますね。——三月の先生方のころである。

○三月のおしまいを、子供らと、どういう風にして別れようか。涙ぐんで抱きしめたりするセンチメンタリズムは禁もつです。入学後の訓戒だけでも、味がない。それは小学校の前の段階としてだけ教育して来た『先生』のことです。一日々々の保育を互の親しさにつけて来、重なる親し

さの中に毎日の親しみを味わつて来た、大きい人と小さい人との、きょうのお別れは、形式的な式辞なんかよりも、一人々々肩に置く手、頭を撫で、やる手、の、やわらかさが与えたい。卒業証書の誇に子供らを喜ばせてやると共に、甘いものでもいっしよの机で集りたべる喜びを共にしたい。先生には年々歳々のことですが、子供らには一生一度の日として。

○親達との別れの挨拶は、親からはお礼、先生からはお祝いの、心からのコーラスが、いつまでも、門の外までも、つゞくとでしよう。そうして、振りかえりく行く母と子の目には希望の喜びの光が、又、いつまでも立つて見送る先生の目には、なんのためだか、自分にも分らない露の玉の光りが、保育の最後のお分れを、金と銀とにちりばめもすることでしょう。——

三月の感想です(倉橋)

「幼児の教育」を求む

本学図書館において「幼児の教育」ブック・ナンバーを揃えたいと思ひますので御協力力ねがひます。

- 一、巻名 第一巻四〇巻までの各号
- 一、買求価格 一冊三〇円、お譲り下さる巻名を予じめて御通知下さる

東京都中野区宮前町四六

寶仙短期大学

電話中野(38)三五一一番

幼児の教育 第三巻 第三號

定価 金五拾円

昭和二十七年三月二十日發行

東京都中野区千光前町一〇

編集者 倉橋 惣三
發行者

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附屬幼稚園内
發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田区神田神保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

振替東京一九六四〇番

○本誌御購について法文中込その他はすべて
フレーベル館宛に願ひます